

住基カードで
図書館サービスを利用

市民生活

宮崎県 宮崎市
延岡市
福岡県 北九州市



▲ クレアパークについて視察（延岡市役所）

宮崎市では、住民基本台帳カードの多目的利用として、印鑑登録カード機能、自動交付機の各種証明書交付、図書館サービスが実施されています。行政サービスの高度化はIT化にあるとの考えから、住基カードを電子証明書の格納媒体に位置づけ、カードは1枚で終わらせることを基本理念に推

進しています。4月末現在の住基カード発行枚数は7万3700枚を超え、全国1位の状況にあります。今後は自動交付機サービス拡充、電子マネー、エコポイント、スポーツ施設予約システム、地域通貨等との連携が課題になっています。

延岡市の複合産業団地「クレアパーク」の特徴は、延岡ジャンクションに隣接し、開発面積135ヘクタールを「工業団

地・流通団地・学術研究・植物園ゾーン」の4つのエリアに区分されています。工業団地26・5ヘクタールのうち、第一工区5・67ヘクタールは10区画に整備され、ほぼ完売状況にあります。

常任委員会

行政視察レポート

議会では、毎年、各常任委員
以下は、6月定例会初日に報

会が先進地を視察し、市政の参考となる諸施策の報告を行っています。
告された、委員長報告の概要です。

市民参加で
自治基本条例案を検討

総務

香川県 丸亀市
愛媛県 四国中央市
愛知県 春日井市



▲ 安全まちづくり協議会について視察（春日井市役所）

「自治基本条例」について、旧丸亀市では、市民委員を含む17名で自治基本条例を考える会を設立、33回の会議を重ね、提言をまとめました。その後、新市になってから、まちづくり懇談会及びワークショップを開催し、条例案を作成したというものであり、本年10月1日から条例を施行するということ

です。四国中央市では、市外・県外の5人を含む42人の応募者によって、自治基本条例検討委員会を設立。延べ40回を超える会議を重ね、条文をつくり上げたというものであり、今後、住民説明会、パブリック・コメントを実施して市長に答申、9月議会に条例案の上程を予定しております。

また、17年度一般会計予算に計上されている、呉市では、児童・生徒の心身の発達などに応じて、1～4年生までの前期、5～7年生までの中期、8、9年生の後期の4・3・2の区分に分け、小中一貫教育の研究開発が始まりました。この小中一貫教育の特色は主に5点あり、小学校と中学校を結ぶ中期に表れています。

国・県の補助制度に基づくものを除いた、市単独の補助金について見直すというところで、17年度に職員による補助金検討委員会、18年度は第三者組織である補助金審議会による審査を行い、予算への反映は平成19年度からを考えているということでありました。



市では、学校給食の自校方式について視察しました。

保健・医療事業を
医師会との協同により充実
健康福祉

北海道 苫小牧市
小樽市
恵庭市

苫小牧市保健センターは、市と医師会の協同により設立された財団法人が施設を運営しています。各種健診を行う総合健診部門では、健診機器とコンピュータをオンライン化することにより短時間で多項目の検査を行い、精度の高い効率的な健診を行っています。夜間

救急診療部門では、年中無休で内科・小児科の診療体制を整えており、その他大型民間病院との受入体制も整えるなど医療の充実を図りながらも、指定管理者制度の導入により、運営費の削減に取り組んでいます。

小樽市は、豊かな地域社会づくりを推進し、多様な個人の自立性のある市民社会の実現のために、地域団体やボランティア等が自己の責任に基づいて地域のために必要なことは自発的に活動する、新しいパートナーシップの確立を目指し、地域住民等による自主グループがひとり暮らし高齢者等に対して行う介護予防に資する事業への助成を行っています。

恵庭市保健センターは「健やかで生きがいのある満たされた生活」という市民の量的・質的な要求を充足していくため、各種健診（検診・相談・教育等）に係るサービスを市民の健康づくり施策を実施しています。基本健康診査、各種がん検診を外部委託し、経費を削減したことで、基本健康診査の対象年齢

を5歳引き下げて実施しています。



▲ 恵庭市保健センターを視察

苫屋市では、景観形成基準などを定めた「苫屋市都市景観条例」を制定して、この条例に基づく「大規模建築物等届出制度」で、敷地緑化、生垣化の努力、駐車場緑化の協力などにより修景緑化に努めるとともに、「苫屋の景観色」を定め、さらに、必要に応じて大学

教授5人からなる景観アドバイザー会議で協議・指導しています。また、南苫屋浜地区では、案内図板や案内誘導広告には多言語併記に努め、広域的と地域案内がセットになっている公共サインもあり、地域の景観と調和した広告景観の形成に努めています。

1点目に、国語と算数・数学では、小・中学校のつながりを意識して、中学校教諭が小学校の授業に出ている点、2点目に、

選択教科については、5年生から取り入れている点、3点目に、5～7年生では、ティーム・ティーチングで英会話の授業を行っている点、4点目に、進路と人間関係の2本柱に、3～8年生では職場訪問、職場体験を行う点、5点目に、5、6年生で一部教科担任制を取り入れた点であります。

そのほか、今治市では、学校給食の自校方式について視察しました。



▲ 小中一貫教育について視察（呉市役所）